

中国向け輸出増は「雑品」輸出の回復？
2009年6月の鉄スクラップ輸出をデータ分析

目 次

| | |
|------------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 1. 2009年6月の鉄スクラップ輸出量 | |
| (1) 向け先に中国が第1位復活 | 1 |
| (2) 品目別特徴 その他屑の構成比増 | 2 |
| 2. 「雑品」輸出の推計 | |
| (1) 雑品とは(調査レポートNO1再掲) | 3 |
| (2) 輸出通関の扱い(調査レポートNO1再掲) | 3 |
| (3) 「雑品」輸出量の推計 | |
| 1) 日中間通関統計量の差異を該当 | 4 |
| 2) グレーゾーンの存在 | 5 |
| 3) 09年1～6月の動き(データ分析) | 5 |
| 4) 「雑品」需給環境変化の考察 | 8 |
| 3. 「雑品」を算定した場合の中国向け輸出量 | 11 |
| 4. 1～6月の韓国向け品目別輸出 | 12 |
| 5. 1～6月の税関地域別輸出 | |
| (1) HS7204計 | 13 |
| (2) 主要品目別特徴 | 13 |
| 1～6月付属データ | |
| 1. 税関地別輸出量・HS7204計 | 15 |
| 2. 税関地別輸出量・HS7204-49-100ヘビー屑 | 16 |

2009.8.6

(株)鉄リサイクリング・リサーチ
代表取締役 林 誠一

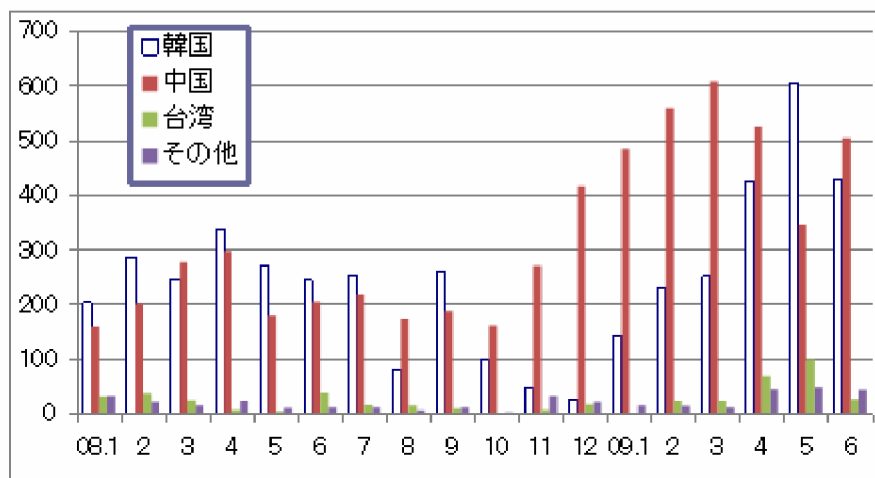
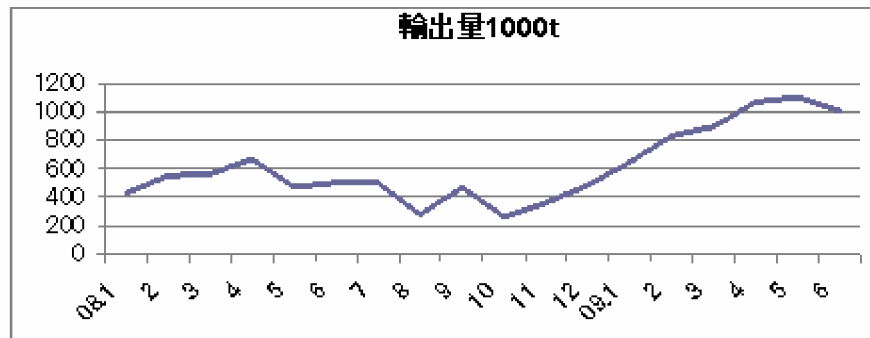
はじめに

2009年6月の鉄スクラップ輸出量は前月を10万t下回る100.7万tとなった。向け先をみると韓国が減少し、中国向けが増加した。しかし中国向けの内容を分析すると「雑品」輸出が回復したと推察される。ところで「雑品」輸出量の把握は日中通関統計の差異を該当させているが、今年に入ってデータは安定していない。通関統計のみでの判断は注意が必要である。韓国向けは前月に比べ新断が半減した。今後はロシアの動向次第で減少が加速する可能性がある。高炉リターン屑が主と見られるヘビー屑輸出量は4月の31.4万tをピークに減少しており6月は25.2万tに縮小した。税関地域別分析などからみて総じて輸出が需給ギャップの調整弁となっていることに変更は起きていない。

1. 2009年6月の鉄スクラップ輸出量

(1) 向け先に中国が第1位復活

鉄スクラップ輸出量は、世界金融危機が勃発した08年10月の26万tを底に月を追って増加をたどり、09年5月には月間史上最高の110万tを記録したが、6月は100.7万tに低下した。向け先をみると、08年11月より牽引して増加した中国を韓国が5月に抜いたが、6月は再び中国向けが第1位となった。



データ；日本鉄源協会（財務省通関統計）

単位1000 t

| | 輸出量 | 韓国 | 中国 | 台湾 | その他 |
|-------|-------|-------|-------|-----|-----|
| 08.1 | 429 | 204 | 160 | 32 | 33 |
| 2 | 551 | 288 | 202 | 38 | 23 |
| 3 | 567 | 247 | 278 | 26 | 16 |
| 4 | 669 | 338 | 298 | 8 | 25 |
| 5 | 471 | 274 | 181 | 5 | 11 |
| 6 | 502 | 245 | 206 | 39 | 12 |
| 7 | 500 | 253 | 218 | 17 | 12 |
| 8 | 279 | 81 | 175 | 16 | 7 |
| 9 | 469 | 259 | 188 | 10 | 12 |
| 10 | 264 | 99 | 161 | 0 | 4 |
| 11 | 362 | 49 | 272 | 8 | 33 |
| 12 | 484 | 25 | 418 | 16 | 23 |
| 09.1 | 646 | 145 | 485 | 0 | 16 |
| 2 | 831 | 231 | 560 | 25 | 15 |
| 3 | 898 | 252 | 609 | 25 | 12 |
| 4 | 1,068 | 427 | 526 | 69 | 46 |
| 5 | 1,103 | 607 | 347 | 100 | 49 |
| 6 | 1,007 | 429 | 505 | 28 | 45 |
| 9.1-6 | 5,553 | 2,091 | 3,032 | 247 | 183 |

(2) 品目別特徴

6月輸出量を主要 HS品目コード別にみると、その他屑(7204-49-900)が62%を占め最大だが、前月に比べるとその他屑のみが約2ポイント増加し、他は減少している。その他屑(7204-49-900)は汎用コードのため加工処理をしない鉄スクラップ(=雑品)が含まれている(本調査レポートNO1で解説)。しかし品目区分なくデータとして把握できないため、日中間の通関統計の差異を「雑品」とみなしているが、6月の増加は「雑品」が寄与したと推察し次項の分析した。また高炉リターン屑が主と見られるヘビー屑は4月の31.4万tをピークに縮小の方向にあり、6月は25.2万tとなった。

単位1000t

| | 7204 | 7204-49-100 | 72-4-41-000 | 7204-49-900 | |
|--------|-------|-------------|-------------|-------------|----------|
| | 輸出計 | ヘビー | 新断、鋼スライ | その他屑 | その他合金鋼屑等 |
| 09.1 | 646 | 176 | 72 | 379 | 19 |
| 2 | 831 | 224 | 85 | 485 | 37 |
| 3 | 898 | 282 | 81 | 496 | 39 |
| 4 | 1,068 | 314 | 112 | 612 | 30 |
| 5 | 1,103 | 281 | 131 | 662 | 29 |
| 6 | 1,007 | 252 | 105 | 623 | 27 |
| 09.1-6 | 5,553 | 1,529 | 586 | 3,257 | 181 |

構成比

単位%

| | 輸出計 | ヘビー | 新断、鋼スライ | その他屑 | その他合金鋼屑等 |
|------|-----|------|---------|-------------|----------|
| 09.1 | 100 | 27.2 | 11.1 | 58.7 | 2.9 |
| 2 | 100 | 27.0 | 10.2 | 58.4 | 4.5 |
| 3 | 100 | 31.4 | 9.0 | 55.2 | 4.3 |
| 4 | 100 | 29.4 | 10.5 | 57.3 | 2.8 |
| 5 | 100 | 25.5 | 11.9 | 60.0 | 2.6 |
| 6 | 100 | 25.0 | 10.4 | 61.9 | 2.7 |

データ:財務省通関統計

2. 「雑品」輸出の推計

(1) 雑品とは(調査レポート NO1 再掲)

「銅付き未解体鉄スクラップ」「鉄付き非鉄スクラップ」とも言われ、モーター、配電盤、湯沸かし器、コンプレッサー、家電類、OA機器など主として銅が付着した未解体の使用済み鉄鋼製品をいい、処理難物である大型機械などの未解体鉄スクラップも含む。これらはかつて国内の鉄スクラップ事業所でガス溶断後、ギロチンやシュレッダーなどで加工処理されていた。しかし中国の銅需要急増と安価な労働力を求め、また大型機械は解体に広い場所が必要なこともあり、未解体(未処理)のまま輸出されることが2003年ごろより顕在化した。現状では加工処理した鉄スクラップとは別の独自の流通体系を形成している。

雑品の例



(2) 輸出通関の扱い(調査レポート NO1 再掲)

輸出通関コード付与にあたっては「含有する金属のうち重量が最大の卑金属の物品」として扱われる(輸出統計品目表第15部卑金属及びその製品の注7に記述)。

上述に基づき「雑品」は主とする重量が鉄スクラップのため、鉄スクラップの品名コードにより輸出されている。HSコードは汎用コードであるHS7204-49-900その他の鉄スクラップである。このコードは従来より加工処理された老廃スクラップで、ヘビーくず以外のもの(ヘビーくずはHS7204-49-100)を輸出する場合に付与するNoであり、プレススクラップやシュレッダースクラップを輸出する場合と混在することになる。

類似品に自動車解体時に選別されるナゲット付きのハーネスがある。しかし銅を主としているため通常、通関はHS7404銅スクラップとして通関されている。

シュレッダー加工処理時に選別されるミックスメタルの場合も同様に、申告者が最大重量金属をどう報告するかにかかわるが、アルミスクリップHS7602か銅スクラップHS7404

か鉄が多ければ HS7204-49-900が使われる。鉄はすでにシュレッダー工程でマグネット採取されており、主重量となるケースは考えにくい。このように雑品輸出量トータルを把握するには「雑品」という品目コードがないため、可能性のある HSコード全てから「雑品」分を推定して合計する必要がある。このため不正輸出の温床となりやすい問題点をもっている。至近では 6月 14日貝塚（大阪）で起きた貨物船火災事故のように積み出し時の事故が無くなっていない。ここでは次に述べるように主力とみられる鉄スクラップ HS7204の日中通関統計差異、銅スクラップ HS7404の日中通関統計差異を分析することによって「雑品」輸出量を推計した。

(3) 「雑品」輸出量の推計

1) 日中間通関統計量の差異を該当

日本からその他の鉄スクラップ品目で輸出された「雑品」は、中国では銅スクラップ（銅を採取する資源）として輸入通関していることが相手国の輸入通関データを見ることで判明している。日本の中国向け鉄スクラップ輸出量 HS7204と中国が日本から輸入した鉄スクラップ輸入量 HS7204を比べると中国が過小であり、その差異は 08年で 205万 tである。一方、銅スクラップ HS7404では逆に過大であり、08年は 170万 tとなっている。そこでこの差異が「雑品」を現すとみなした。ちなみに対韓国、対台湾間ではこのような差異は発生していない。

日中間における鉄スクラップと銅スクラップ貿易量の差異

| 鉄スクラップ HS7204 単位1000t | | | | 銅スクラップ HS7404 単位1000t | | | |
|--------------------------|-------|-------|--------------|--------------------------|-------|-------|--------------|
| | 日本の輸出 | 中国の輸入 | 差異 | | 日本の輸出 | 中国の輸入 | 差異 |
| 2001 | 2,865 | 2,027 | 838 | | | | |
| 2002 | 2,511 | 1,749 | 762 | | | | |
| 2003 | 2,542 | 1,395 | 1,147 | | | | |
| 2004 | 2,789 | 1,427 | 1,362 | 2004 | 319 | 1,602 | 1,283 |
| 2005 | 3,461 | 1,898 | 1,563 | 2005 | 385 | 1,865 | 1,480 |
| 2006 | 2,756 | 1,107 | 1,649 | 2006 | 412 | 1,948 | 1,536 |
| 2007 | 2,326 | 507 | 1,819 | 2007 | 381 | 2,071 | 1,690 |
| 2008 | 2,756 | 708 | 2,048 | 2008 | 360 | 2,060 | 1,700 |

データ 日本の輸出＝財務省「通関統計」、中国の輸入＝海関統計

日韓、日台間における差異²⁾

鉄スクラップ・韓国の場合

| | 日本の輸出 | 韓国の輸入 | 差異 |
|------|-------|-------|------|
| 2001 | 1,921 | 1,985 | -64 |
| 2002 | 1,966 | 1,949 | 17 |
| 2003 | 1,913 | 1,886 | 27 |
| 2004 | 2,657 | 2,650 | 7 |
| 2005 | 2,874 | 2,832 | 42 |
| 2006 | 3,378 | 3,431 | -53 |
| 2007 | 3,186 | 3,387 | -201 |

鉄スクラップ・台湾の場合

| | 日本の輸出 | 台湾の輸入 | 差異 |
|------|-------|-------|-----|
| 2001 | 792 | 792 | 0 |
| 2002 | 923 | 923 | 0 |
| 2003 | 870 | 866 | 4 |
| 2004 | 930 | 928 | 2 |
| 2005 | 875 | 874 | 1 |
| 2006 | 1,185 | 1,185 | 0 |
| 2007 | 488 | 498 | -10 |

2) グレーゾーンの存在

日中通関統計における2品目間での取り違いであるなら、2品目の合計は、タイムラグ以外ほぼ一致するはずである。ところが年々ギャップは広がる傾向をみせており、2004年の8万tは2008年は35万tとなっている。これは何を意味するのだろうか。

鉄スクラップ+銅スクラップ 単位1000t

| | 日本の輸出 | 中国の輸入 | 差異 |
|------|-------|-------|------------|
| 2004 | 3,108 | 3,029 | 79 |
| 2005 | 3,846 | 3,763 | 83 |
| 2006 | 3,168 | 3,055 | 113 |
| 2007 | 2,707 | 2,578 | 129 |
| 2008 | 3,116 | 2,768 | 348 |

日本の輸出コードその他のくずは、汎用コードのため銅付未解体鉄スクラップ以外に繊維機械、工作機械などの鉄系未解体スクラップや大型プラント物 エンジンブロック アルミサッシ などの混入がある。しかし「雑品」の船積みは、価格や揚げ港が異なるため独自に輸送されている。仮にアルミくずに該当するアルミサッシや鉄スクラップに該当する鉄くずが混入していた場合、到着後、輸入通関時に荷を広げてこれらを選別し、個別に通関するだろうか。またコンテナの場合、全てがアルミサッシならばアルミくずで通関するはずである。

にも関わらずギャップが存在する要因に、「Bカン」なる2重操作が相手側で行われていることが想定される(ヒアリング情報)。品種により異なるが5%~10%程度数量を少なく輸入通関し、金額はそのまま日本に支払うという。5~10%分を関税逃れし、独自に流通させているとのことである。特に2008年は価格乱高下した年であり、格差拡大がうなずける。このような事が(一般的に)行われていることが事実であれば、グレーゾーンは根絶できず、量は明確化できないということになる。

3) 09年1~6月の動き(データによる分析)

グレーゾーンの問題あるが、07年1月より09年6月までの動きを月次ベースで双方の通関統計により分析し推計した。

「鉄スクラップについて」

日本の中国むけ鉄スクラップ輸出

07年の月平均19.4万tは08年23.1万tであり、この間は毎月平均的に輸出されている。しかし08年11月より増加傾向を示し09年3月には61万tのピークとなった後、5月は34.7万tに下落し、6月は50.5万tに復活した。09年5月までの動きは鉄スクラップ価格変動に伴っており、高騰期は停滞し低価格期に増加している(本調査レポート3で解説)。

中国の日本からの鉄スクラップ輸入通関量のうごき

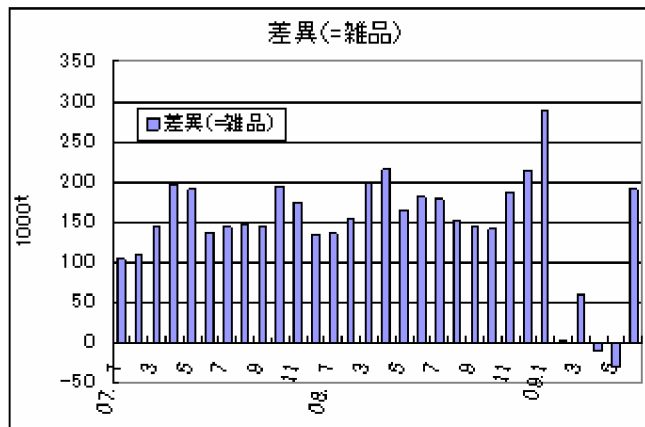
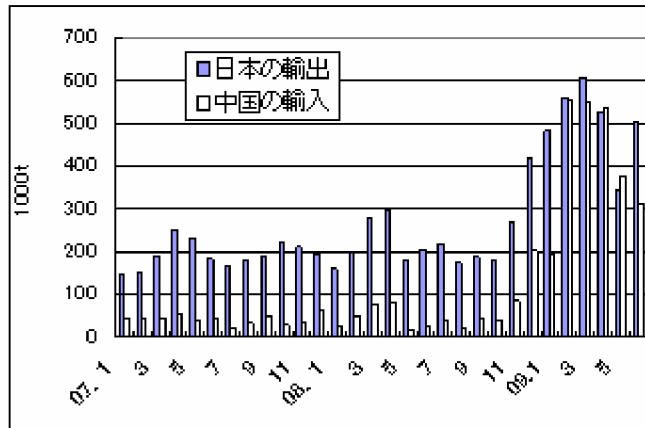
これに対して中国輸入通関量は07年月平均4.2万t、08年同5.9万tであり、日本輸出

量の 22%、25.5%程度しかないが、変動幅は少ない。その後 08年 11月より拡大に転じ 09年 2～4月の3ヶ月では 50万 tを超える高水準となった後、5月は 37.8万 tに更に6月は 31.4万 tへ低下している。しかしこのような推移は価格高騰期に停滞し低価格期に増加する日本の鉄スクラップ輸出の動きにほぼ連動している。

日中通関統計の差異の動き

双方の通関統計の差異 (= 雑品) をみると、07年月平均 15.2万 tは 08年に 17.2万 tとなり大きな変動はみられない(固定的な流通関係にあったと推察される)。しかし 08年 11月の 18.7万 tから 12月 21.5万 t、09年 1月は 28.9万 tに拡大。その後 2月～5月の間で差異がマイナスとなるなど、データ不安定状態を示し、6月は再び 19.1万 t(08年の通常月ベース)に回復している。6月の日本の中国向け輸出 50.5万 tにこの不確かな 19.1万 tが含まれていることになる。

| 鉄スクラップ 単位1000t | | | |
|----------------|---------------|---------------|----------|
| | 中国向け 日本の輸出 | 日本から 中国の輸入 | 差異 (=雑品) |
| 07. 1 | 149 | 45 | 104 |
| 2 | 151 | 42 | 109 |
| 3 | 191 | 47 | 144 |
| 4 | 252 | 55 | 197 |
| 5 | 231 | 40 | 191 |
| 6 | 183 | 45 | 138 |
| 7 | 165 | 21 | 144 |
| 8 | 179 | 33 | 146 |
| 9 | 192 | 49 | 143 |
| 10 | 225 | 30 | 195 |
| 11 | 211 | 37 | 174 |
| 12 | 196 | 62 | 134 |
| 08. 1 | 160 | 24 | 136 |
| 2 | 202 | 48 | 154 |
| 3 | 278 | 79 | 199 |
| 4 | 298 | 82 | 216 |
| 5 | 181 | 17 | 164 |
| 6 | 206 | 25 | 181 |
| 7 | 218 | 39 | 179 |
| 8 | 175 | 22 | 153 |
| 9 | 188 | 44 | 144 |
| 10 | 181 | 40 | 141 |
| 11 | 272 | 85 | 187 |
| 12 | 418 | 203 | 215 |
| 09.1 | 485 | 196 | 289 |
| 2 | 560 | 558 | 2 |
| 3 | 609 | 549 | 60 |
| 4 | 526 | 537 | -11 |
| 5 | 347 | 378 | -31 |
| 6 | 505 | 314 | 191 |
| 071-12 | 2,328 | 507 | 1,821 |
| 081-12 | 2,757 | 708 | 2,049 |
| 091-6 | 3,032 | 2,532 | 500 |
| 07月平均 | 194 | 42 | 152 |
| 08月平均 | 231 | 59 | 172 |
| 091-6 | 505 | 422 | 83 |



「銅スクラップについて」

日本の中国向け銅スクラップ輸出

自動車解体時に選別されたハーネス類や雑線などを主としている。07年は月平均 3.2万 t、08年は 3.0万 tと安定的である。09年は 1月に 1.6万 tまで落ち込んだものの4月には 4.5万 tまで増加した。その後5月 2.8万 t、6月 2.3万 tで推移している。最近の廃車発生低迷を反映した動きであり、実勢を現すとれる。

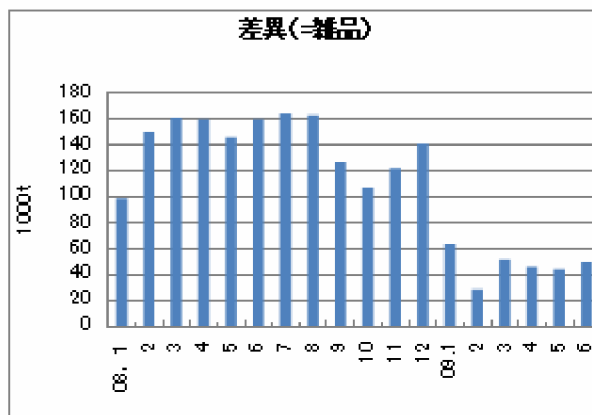
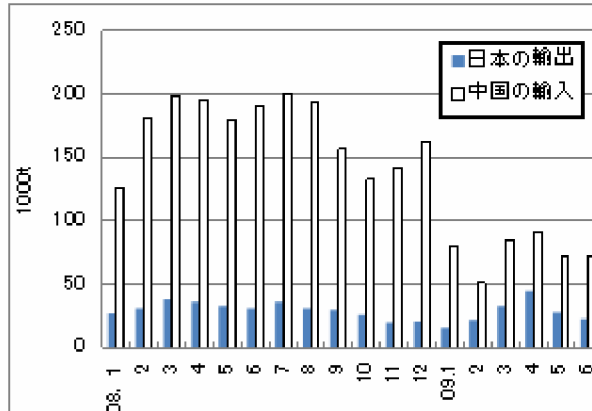
中国の日本からの銅スクラップ輸入量

これに対して中国が日本から輸入した銅スクラップ通関量は 07年月平均 17.3万 t、08年は 17.2万 tであり、日本の銅スクラップ輸出量の 5.4倍、5.7倍ある。その動きは 07年から 08年間は月別にみても大きな変化は見られていないが、09年になって 08年の半減以下となる状態で続いている。この下落は日本の銅スクラップ輸出がそれほど落ち込んでいないことからみて、「雑品」が激減したことによるものと推察される（しかしこれほど落ち込みは大きくないという見方もある）。

日中通関統計の差異の動き

差異（＝雑品）をみると、07年月平均 14.1万 tは 08年に 14.2万 tとなりほぼ同量である。しかし 09年 1月は 6.4万 tに半減後、2月 2.9万 t、3月 5.2万 t、4月 4.6万 t、5月 4.4万 tと伸び悩みが続き、6月は 5.0万 tに微増した。

| | 銅スクラップ | | 単位 1000t |
|--------|---------------|---------------|----------|
| | 中国向け 日本の輸出 | 日本から 中国の輸入 | |
| 08. 1 | 27 | 126 | 99 |
| 2 | 31 | 181 | 150 |
| 3 | 38 | 199 | 161 |
| 4 | 36 | 196 | 160 |
| 5 | 33 | 179 | 146 |
| 6 | 31 | 191 | 160 |
| 7 | 36 | 200 | 164 |
| 8 | 31 | 194 | 163 |
| 9 | 30 | 157 | 127 |
| 10 | 26 | 133 | 107 |
| 11 | 20 | 142 | 122 |
| 12 | 21 | 162 | 141 |
| 09.1 | 16 | 80 | 64 |
| 2 | 22 | 51 | 29 |
| 3 | 33 | 85 | 52 |
| 4 | 45 | 91 | 46 |
| 5 | 28 | 72 | 44 |
| 6 | 23 | 73 | 50 |
| 071-12 | 381 | 2,071 | 1690 |
| 081-12 | 360 | 2,060 | 1700 |
| 091-6 | 167 | 452 | 285 |
| 07月平均 | 32 | 173 | 141 |
| 08月平均 | 30 | 172 | 142 |

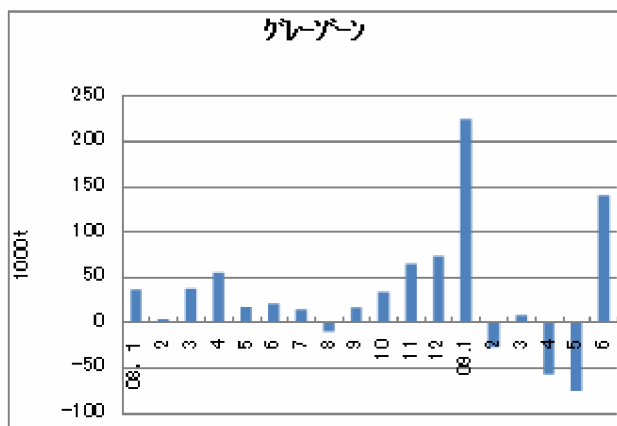
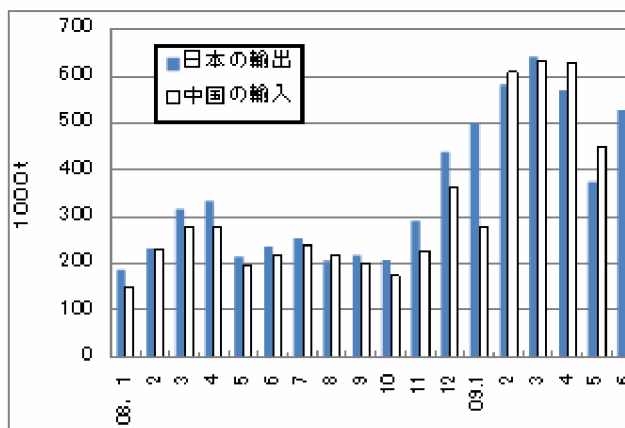


「鉄スクラップ+銅スクラップでの日中比較」 通関統計差異の検証

日中の通関統計における鉄スクラップと銅スクラップを加えたものの比較では、本来この2品目の品目コードの取り違えであれば差異は生じないはずだが、前述したようにグレーゾーンの存在と次項で述べる事項などで、特に 09年1～6月間でデータが不安定となっている。6月は元に戻った状態である。また 09年1～6月で見ると、グレーゾーンは 3.6万 t(乖離率 6.8%)であり、08年の 2.9万 t(乖離率 11.1%)に比べ乖離率は縮まった。

鉄スクラップ+銅スクラップ 単位1000t

| | 中国向け 日本の輸出 | 日本から 中国の輸入 | グレーゾーン |
|--------|---------------|---------------|--------|
| 08. 1 | 187 | 150 | 37 |
| 2 | 233 | 229 | 4 |
| 3 | 316 | 278 | 38 |
| 4 | 334 | 278 | 56 |
| 5 | 214 | 196 | 18 |
| 6 | 237 | 216 | 21 |
| 7 | 254 | 239 | 15 |
| 8 | 206 | 216 | -10 |
| 9 | 218 | 201 | 17 |
| 10 | 207 | 173 | 34 |
| 11 | 292 | 227 | 65 |
| 12 | 439 | 365 | 74 |
| 09.1 | 501 | 276 | 225 |
| 2 | 582 | 609 | -27 |
| 3 | 642 | 634 | 8 |
| 4 | 571 | 628 | -57 |
| 5 | 375 | 460 | -85 |
| 6 | 528 | 387 | 141 |
| 071-12 | 2708 | 2578 | 131 |
| 081-12 | 3117 | 2768 | 349 |
| 091-6 | 3199 | 2984 | 215 |
| 07月平均 | 226 | 215 | 11 |
| 08月平均 | 260 | 231 | 29 |
| 091-6 | 533 | 497 | 36 |



4) 「雑品」需給環境変化の考察

「鉄スクラップについて」

調査レポート NO3 で述べたが、日本の鉄スクラップ価格が 08年 11月上旬 1万円 /t を切る低価格となった時、最初にオファーしたのは中国だった。以前より中国は「上質で安価であること」を条件に輸入しているが、日本の高炉メーカーリターン屑がたたたま呼応した形となった。

ヘビー屑(高炉リターン屑)は 09年 3月まで増加し、その後は減少に向かっている。

09年 2月～5月までの日中鉄スクラップ通関統計差異ゼロは、次に述べる雑品流通の中国内不況を前提とするなら、まさに製鋼用鉄スクラップの輸入そのものであったと考察する。

「雑品」について

10月に勃発した世界金融危機は世界の実態経済に暴落を与えた。「雑品」もこの影響を受け、中国国内では高騰期に日本から購入した「雑品」の解体後の非鉄金属販売時に、中国国内の非鉄マーケットが不振となり価格が暴落した。このギャップに耐えられず、高価格雑品在庫を抱えこんだまま倒産や転業が進んだ。

こうしたなか、中国政府は 08年 11月 4兆元に及ぶ景気刺激策を発表した。

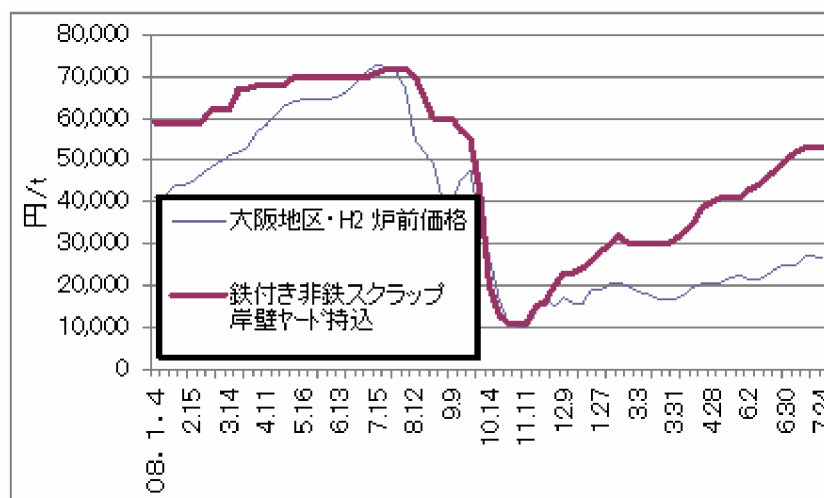
これに乗じて商機を狙った？中国系の「雑品」バイヤーが、日本に押しかけている。

日本では、実態経済の低迷から配電盤、モーター等の工場系、個人消費にかかわる家電OA系ともに発生が減少し集荷難が続いている。このため買子と呼ばれる回収業は転廃業が進んでいる。

発生減でありながら、バイヤーの増加は集荷における過当競争を生み、価格は上昇の方向に向かっている。銅価格及び鉄スクラップ価格に比べて高騰している理由はまさに集荷過当競争の結果であって、中国国内の実需が強いためではない。

09年 1月以降銅スクラップ通関差異が前月比半減後低水準で続いていることは、中国実需が未回復であることを現すと見えよう。

このような経緯のなかで、09年 6月の回復は、実需回復なのかどうか注目されるところである。



データ; 日刊市況通信社調べ 鉄付き非鉄スクラップ価格は中央値

「雑品」を取り巻く規制状況

中国側では今年に入って規制が強化されている。また日本では無くならない貨物船の火災事故に対して、対策が強化されつつある。このような規制状況が輸出入を鈍らせているともとれる。

中国における規制強化

・不正行為を防止する目的から品質検査の強化が進んでいる。09年 5月より日中商品検査

はコンテナの場合、全量検査に踏み切った。こうした検査は現地到着後も行われている。

・鉄スクラップの輸入関税はないが 17%の増値税がかかる（増値税は輸入単価に課されるのではなく、輸入者に課される）。この増値税は品種別に異なるため混載の場合、安価品目で申告するケースが多かったと聞く。しかし最近では税関審査が厳格化されてきており、この手法は適用できなくなっている。

・加えて6月末より中国の非鉄及び雑品系スクラップの課税基準額が上昇している。この額は上海の非鉄金属相場と連動しているが、上海は LMEと異なる動きを示すことがありギャップがリスクとなる場合がある。

・中国南部広東省の港は6月末から雑品の輸入を禁止する措置をとった。背景に混載の問題（混載規制）がある模様。

・税関地により「雑品」を HS7204で輸入通関するところと今までのように HS7404銅スクラップで通関するところが混同している。雑品単独で通関できないため、鉄スクラップと混載して通関を通す地域では HS7204通関となっている。このような税関地による通関相違がデータの不安定を招いていると考察する。

日本の場合

・09年6月14日貝塚港（大阪）で発生した「雑品」積載船火災事故を受け、翌日の関係者対策会議では、「岸壁ヤードに保管している全ての在庫は、自社ヤードに戻し内容物の再検査を行う」「再発防止のため、バッテリーや油類などを含有した電子機器、タンク類などの事前除去を徹底する」ことを申し合わせた。再発した場合、貝塚港からの雑品船積みは一切認めないこともありうるとしている（規制の強化）。

・火災リスクを抑えるため、積載のうち家電系を最大 20%（残り 80%は工業系）とするブレンド自衛策が始められている（関西）。

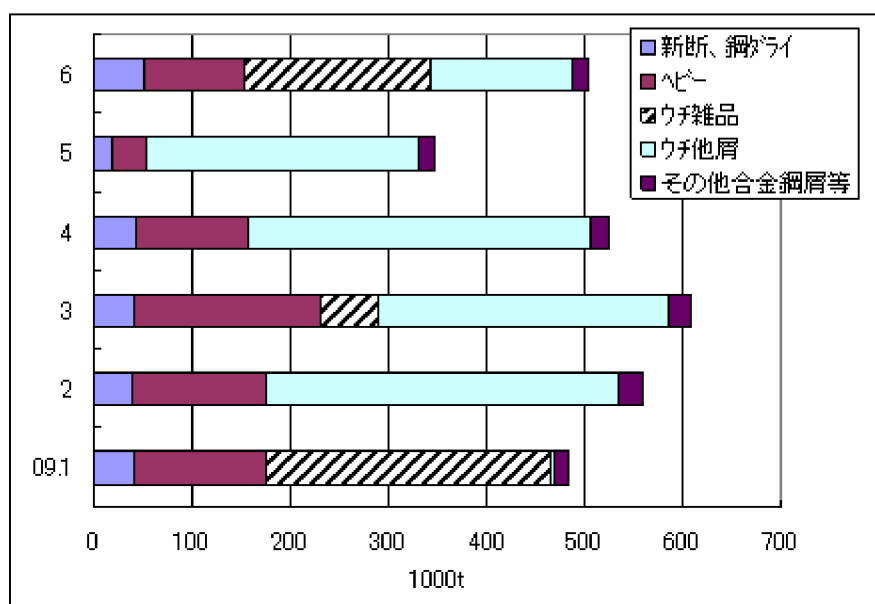
・また、火災原因になる物品を事前に除去する（重機により粉砕するなど）対策がとられ、検収を厳しくする方向にある。しかし徹底するほどコストアップ要因につながる矛盾がある。

3. 「雑品」を算定した場合の中国向け輸出

以上分析してきたように日中通関統計の差異を一概に「雑品」と見なせない問題点があるが、仮に鉄スクラップ通関統計差を適用すれば、09年6月は50.5万tのうち19.1万tが「雑品」となる。その結果、他の中国向け品目も含め整理すると、6月は「雑品」が回復したことが大きい。さらに「雑品」は鉄スクラップとは別の流通形態をとっていることから、加工処理した鉄スクラップ輸出量は31.4万tとなり、5月の34.7万tに対して3.3万t減少していると整理される。

1月の28.9万tと6月の19.1万tを修正した09年1-6月累計は255.2万tとなり、中国の日本からの輸入量253.2万tに近づくがこれが真の輸入量であるかは、「Bカン」の操作如何と「雑品」混載評価の程度にかかわろう。

| 中国 | | 単位1000t | | | | | | |
|--------|------------|-------------|-------------|-------------|------|-------|----------|--|
| | 7204 | 72-4-41-000 | 7204-49-100 | 7204-49-900 | | | | |
| | 輸出計 | 新断、鋼ワイ | ペーパー | その他屑 | ウチ雑品 | ウチ他屑 | その他合金鋼屑等 | |
| 09.1 | 485 | 41 | 135 | 294 | 289 | 5 | 15 | |
| 2 | 560 | 39 | 135 | 362 | 2 | 360 | 24 | |
| 3 | 609 | 40 | 189 | 358 | 60 | 298 | 22 | |
| 4 | 526 | 43 | 114 | 349 | 0 | 349 | 20 | |
| 5 | 347 | 18 | 35 | 277 | 0 | 277 | 17 | |
| 6 | 505 | 50 | 103 | 336 | 191 | 145 | 16 | |
| 09.1-6 | 3,032 | 231 | 711 | 1,976 | 542 | 1,434 | 114 | |



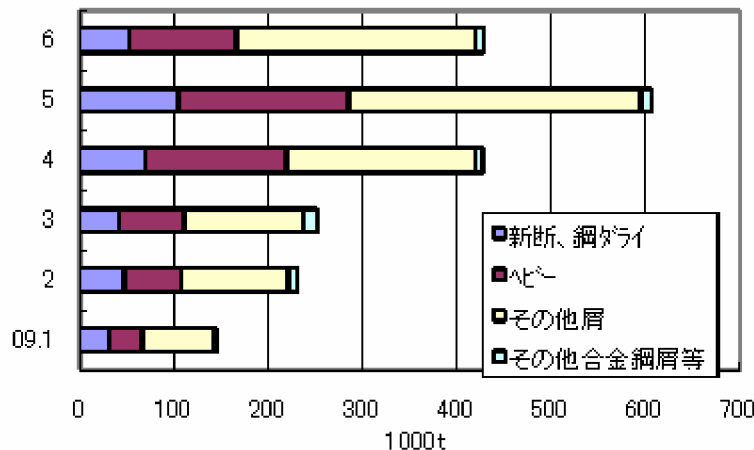
4. 1～6月の韓国向け品目別輸出

主要HS品目別にみた韓国向け輸出量では、各品目とも09年5月が最高量となっており、6月はそれぞれ減少した。特に新断が半減したが、現代製鉄の購入減が影響したと見られる。また現代製鉄は7月中旬以降より1ヶ月程度の定期炉修を行っており契約量は控えめとなっている模様。

しかし全体的には4月からロシアが極東の積み出し港を制限し事実上の輸出ストップをかけたため、その代替ソースとして日本くずの買いを高めていると推察するが、その動きは6月も引き続けていると見られる。但し、ロシアは世界金融危機により国内経済の不振が続いており、外貨獲得のための輸出緩和処置の動きもあり、今後の動向次第では日本ソースの減少が加速する可能性がある。

| 韓国 | | 単位1000t | | | |
|--------|-------|-------------|-------------|-------------|----------|
| | 7204 | 72-4-41-000 | 7204-49-100 | 7204-49-900 | |
| | 輸出計 | 新断、鋼グライ | ヘビー | その他屑 | その他合金鋼屑等 |
| 09.1 | 145 | 31 | 35 | 76 | 3 |
| 2 | 231 | 47 | 61 | 113 | 10 |
| 3 | 252 | 41 | 70 | 126 | 15 |
| 4 | 427 | 69 | 150 | 201 | 7 |
| 5 | 607 | 104 | 181 | 310 | 12 |
| 6 | 429 | 52 | 114 | 254 | 9 |
| 09.1-6 | 2,091 | 344 | 611 | 1,080 | 56 |

| 構成比 | | 単位% | | | |
|------|-----|-------------|-------------|-------------|------------|
| | 輸出計 | 新断、鋼グライ | ヘビー | その他屑 | その他合金鋼屑等 |
| 09.1 | 100 | 21.4 | 24.1 | 52.4 | 2.1 |
| 2 | 100 | 20.3 | 26.4 | 48.9 | 4.3 |
| 3 | 100 | 16.3 | 27.8 | 50.0 | 6.0 |
| 4 | 100 | 16.2 | 35.1 | 47.1 | 1.6 |
| 5 | 100 | 17.1 | 29.8 | 51.1 | 2.0 |
| 6 | 100 | 12.1 | 26.6 | 59.2 | 2.1 |

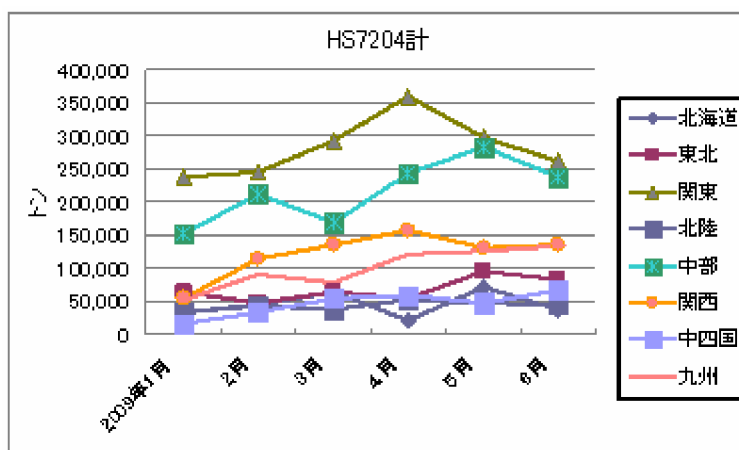


5. 1～6月の税関地域別輸出

全国 154ヶ所の税関地を 8 地域別に集約して、主要 HS品目別に整理した。なお個別税関地別データは 16頁（7204計） 17頁（7204-49-100ヘビー屑）について示した。

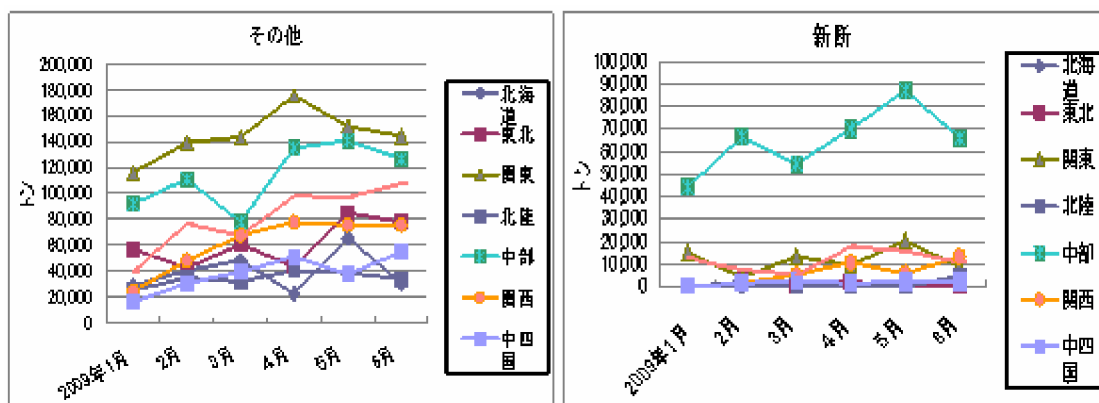
（1）HS 7204全体

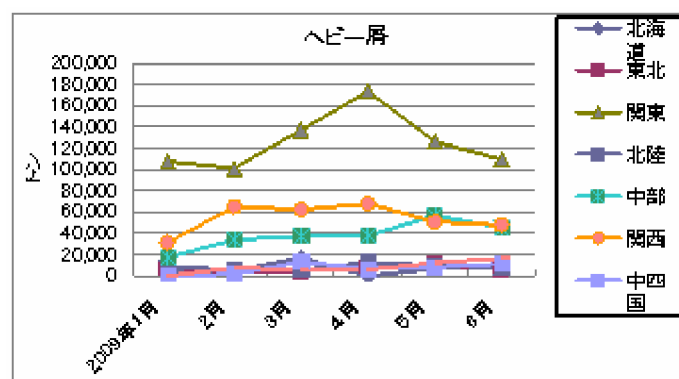
HS7204計の6月は、前月に比べ全国は約 10万 t減少したが地域別にみると、関西、中四国、九州が増加し、他は減少するなど地域により差異がある。地域における需給ギャップの違いがあらわれているものと推察する。



（2）主要品目別特徴

これを HS主要品目別にみると、一番量の大きいその他くず（この場合は合金鋼屑等を含む）は中・四国、九州で増加。新断は北陸、関西、ヘビー屑は北海道、中・四国、九州で増加している。その他くず及び新断、ヘビー屑について下図に示す。





単位トン

| | 2009年1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 6-5増減 |
|------|---------|---------|---------|-----------|-----------|-----------|---------|
| 北海道 | 33,343 | 44,728 | 65,005 | 22,005 | 72,334 | 38,022 | -34,312 |
| 新断 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| へビ-屑 | 4,740 | 4,680 | 16,980 | 0 | 6,876 | 7,791 | 915 |
| その他 | 28,603 | 40,048 | 48,025 | 22,005 | 65,458 | 30,231 | -35,227 |
| 東北 | 64,547 | 47,550 | 64,885 | 54,701 | 95,178 | 83,906 | -11,272 |
| 新断 | 0 | 2,039 | 0 | 2,199 | 0 | 0 | 0 |
| へビ-屑 | 7,773 | 3,470 | 4,340 | 9,173 | 10,350 | 6,348 | -4,002 |
| その他 | 56,774 | 42,041 | 60,545 | 43,329 | 84,828 | 77,558 | -7,270 |
| 関東 | 238,711 | 244,633 | 293,711 | 358,693 | 298,653 | 262,232 | -36,421 |
| 新断 | 14,887 | 4,217 | 13,266 | 9,460 | 20,387 | 8,610 | -11,777 |
| へビ-屑 | 107,704 | 101,237 | 137,151 | 173,722 | 126,302 | 109,400 | -16,902 |
| その他 | 116,120 | 139,179 | 143,294 | 175,511 | 151,964 | 144,222 | -7,742 |
| 北陸 | 32,664 | 42,991 | 37,093 | 52,572 | 47,667 | 45,820 | -1,847 |
| 新断 | 0 | 2,170 | 0 | 0 | 0 | 4,501 | 4,501 |
| へビ-屑 | 7,549 | 6,238 | 5,578 | 12,471 | 9,290 | 7,840 | -1,450 |
| その他 | 25,115 | 34,583 | 31,515 | 40,101 | 38,377 | 33,479 | -4,898 |
| 中部 | 153,516 | 211,494 | 169,673 | 243,080 | 284,369 | 238,195 | -46,174 |
| 新断 | 44,294 | 66,590 | 54,654 | 69,993 | 87,038 | 66,067 | -20,971 |
| へビ-屑 | 17,456 | 33,731 | 37,402 | 37,817 | 56,634 | 45,475 | -11,159 |
| その他 | 91,766 | 111,173 | 77,617 | 135,270 | 140,697 | 126,653 | -14,044 |
| 関西 | 55,573 | 114,352 | 135,039 | 156,043 | 132,070 | 136,369 | 4,299 |
| 新断 | 0 | 1,500 | 5,237 | 10,723 | 5,770 | 13,339 | 7,569 |
| へビ-屑 | 31,134 | 64,938 | 62,359 | 67,827 | 50,874 | 47,772 | -3,102 |
| その他 | 24,439 | 47,914 | 67,443 | 77,493 | 75,426 | 75,258 | -168 |
| 中四国 | 15,726 | 33,341 | 54,433 | 59,236 | 47,809 | 67,703 | 19,894 |
| 新断 | 0 | 1,396 | 2,750 | 1,500 | 2,200 | 2,200 | 0 |
| へビ-屑 | 0 | 1,600 | 12,848 | 6,641 | 8,128 | 11,198 | 3,070 |
| その他 | 15,726 | 30,345 | 38,835 | 51,095 | 37,481 | 54,305 | 16,824 |
| 九州 | 51,487 | 91,506 | 77,680 | 121,569 | 125,287 | 134,468 | 9,181 |
| 新断 | 12,367 | 7,476 | 5,461 | 17,727 | 15,821 | 10,874 | -4,947 |
| へビ-屑 | 0 | 7,834 | 5,159 | 5,983 | 12,282 | 16,382 | 4,100 |
| その他 | 39,120 | 76,196 | 67,060 | 97,859 | 97,184 | 107,212 | 10,028 |
| 全国計 | 645,567 | 830,595 | 897,519 | 1,067,899 | 1,103,367 | 1,006,715 | -96,652 |
| 新断 | 71,548 | 85,388 | 81,368 | 111,602 | 131,216 | 105,591 | -25,625 |
| へビ-屑 | 176,356 | 223,728 | 281,817 | 313,634 | 280,736 | 252,206 | -28,530 |
| その他 | 397,663 | 521,479 | 534,334 | 642,663 | 691,415 | 648,918 | -42,497 |

付属データ2 税関地別輸出货量・HS7204-49-100 ヘビー屑

| 72-4-49-100 ヘビー屑 | | 単位トン | | | | | | |
|------------------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | 2009年1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 6-5増減 |
| 北海道 | 釧路 | | | | | | | |
| | 小笠原 | 2,150 | 4,680 | 2,125 | | 2,101 | 141 | -1,960 |
| | 石狩 | 2,520 | | 12,255 | | 4,775 | 7,690 | 2,875 |
| | 十勝 | 0 | | | | | | 0 |
| | 計 | 4,740 | 4,680 | 15,380 | 0 | 6,876 | 7,791 | 915 |
| 東北 | 塩釜 | | | | 2,748 | | | 0 |
| | 石巻 | | | | | | 2,192 | 2,192 |
| | 沼田 | | | | | | | 0 |
| | 秋田 | 2,042 | | 1,042 | 2,347 | 1,005 | 254 | -751 |
| | 青森 | | | | | | | 0 |
| | 八戸 | | | | | | | 0 |
| | 小笠原 | 2,217 | 2,470 | 2,207 | 4,078 | 0,345 | 2,002 | -5,443 |
| | 計 | 2,538 | 2,470 | 4,249 | 9,173 | 10,350 | 6,343 | -4,002 |
| 関東 | 日立 | | | | | | | 0 |
| | 横河 | 2,402 | 6,349 | 2,012 | 21,062 | 2,027 | 6,927 | -1,020 |
| | 川崎 | 29,103 | 42,220 | 49,795 | 60,451 | 51,429 | 22,222 | -22,536 |
| | 横須賀 | 4,250 | | 4,400 | | 2,200 | 2,200 | 0 |
| | 宇都宮 | 71,240 | 52,662 | 75,461 | 22,002 | 54,522 | 71,210 | 16,717 |
| | 水戸 | | | | | | | 0 |
| | 東京 | 0 | | 5,422 | 4,207 | 9,922 | | -9,922 |
| | 計 | 107,204 | 109,231 | 137,151 | 173,722 | 126,302 | 109,402 | -16,302 |
| | <東日本合計> | 120,217 | 109,327 | 152,471 | 182,295 | 142,528 | 122,529 | -19,222 |
| 北陸 | 富山 | | | | | | | 0 |
| | 石川 | | | | | | | 0 |
| | 金沢 | 1,205 | | 2,027 | 1,221 | 262 | | -262 |
| | 福井 | | | | | | 1,754 | 1,754 |
| | 滋賀 | | 2,027 | 2,421 | 2,612 | 6,211 | 2,025 | -4,150 |
| | 福井 | 5,244 | 4,211 | 7,222 | 2,217 | 4,222 | 1,222 | 1,222 |
| | 計 | 7,549 | 6,238 | 5,578 | 12,471 | 9,290 | 7,222 | -1,450 |
| 中部 | 名古屋 | 12,222 | 12,222 | 12,222 | 22,222 | 22,222 | 22,222 | -2,222 |
| | 三河 | 742 | 2,222 | 2,222 | 2,222 | 2,222 | 2,222 | -2,222 |
| | 岐阜 | | | | | | | 0 |
| | 四日市 | | | | | | 2,222 | 2,222 |
| | 津 | 2,027 | 2,222 | | 1,222 | 1,222 | 1,222 | 22 |
| | 田子 | | 7,222 | 2,222 | 2,222 | 4,222 | 5,222 | 1,451 |
| | 御前 | 1,222 | | 2,222 | 2,222 | 2,222 | 1,222 | -241 |
| | 計 | 17,456 | 22,222 | 27,222 | 37,222 | 56,222 | 45,222 | -11,159 |
| | <北陸+中部合計> | 25,005 | 30,222 | 42,222 | 50,222 | 65,222 | 53,222 | -12,000 |
| 関西 | 堺 | | 260 | 1,222 | | | | 0 |
| | 大阪 | | | | | 1,122 | | -1,122 |
| | 堺 | 14,222 | 22,222 | 27,222 | 19,222 | 12,222 | 15,222 | -3,054 |
| | 和歌山 | | | | | | | 0 |
| | 神戶 | 1,222 | | 12 | 12,222 | 9,222 | 7,222 | -2,304 |
| | 尼崎 | 12,222 | 24,222 | 17,222 | 20,222 | 12,222 | 12,222 | 73 |
| | 姫路 | | | 1,222 | | | | 0 |
| 鹿嶋 | 2,222 | 2,122 | 4,222 | 5,222 | 2,422 | 5,722 | 3,312 | |
| | 和歌山 | 0 | | | | | | 0 |
| | 計 | 21,122 | 24,222 | 22,222 | 27,222 | 20,222 | 27,222 | -3,102 |
| 中国 | 宇野 | | | | 1,122 | | | 0 |
| | 水島 | | | 7,222 | 2,222 | 2,722 | | -2,722 |
| | 福山 | | | 1,122 | 279 | 1,222 | 400 | -972 |
| | 岡山 | | | | | | | 0 |
| | 広島 | | | | | | 15 | 15 |
| | 徳島 | | | | | | | 0 |
| | 岡山 | | | | | | | 0 |
| | 岡山 | | | | | | | 0 |
| | 岡山 | | 1,222 | 4,222 | 1,222 | 2,222 | 7,222 | 3,222 |
| | 岡山 | | | | | 477 | 2,222 | 2,222 |
| | 小笠原 | 0 | | | | | | 0 |
| | 計 | 0 | 1,222 | 12,222 | 6,222 | 2,122 | 11,122 | 3,070 |
| 九州 | 高崎 | | | | | | | 0 |
| | 三井 | | | | | | 2,422 | 2,422 |
| | 八幡 | | 2,027 | | 1,222 | 2,722 | 1,222 | -276 |
| | 唐津 | | | | | | | 0 |
| | 伊万里 | | | | | | 220 | 220 |
| | 鹿屋 | | 2,222 | 2,222 | 2,222 | 2,722 | 4,222 | -900 |
| | 川崎 | | | | | | | 0 |
| | 大分 | | | | 220 | 2,222 | | -2,242 |
| | 熊本 | | | 1,222 | | 1,422 | 1,522 | 27 |
| | 門司 | | | | | | | 0 |
| 福岡 | | | | | | 1,022 | 1,022 | |
| 三井 | | | | | | | 0 | |
| 三井 | | | | | | | 0 | |
| 三井 | | | | | | | 0 | |
| | 計 | 0 | 7,222 | 5,122 | 5,222 | 12,222 | 15,222 | 4,100 |
| | <西日本合計> | 21,122 | 24,222 | 20,222 | 20,451 | 71,222 | 75,222 | 4,062 |
| | <日本>合計 | 176,222 | 222,222 | 222,222 | 312,222 | 222,222 | 222,222 | -22,222 |